

第7回 ガーヤちゃん杯争奪

越谷少年柔道大会

審判・監督会議資料

日 時 : 令和5年6月4日(日) 開会式 午前9:50
場 所 : 越谷市総合体育館 第一体育室(メインアリーナ)
主 催 : 越谷市柔道連盟
共 催 : 公益財団法人 越谷市施設管理公社
後 援 : 公益財団法人 講道館
公益財団法人 全日本柔道連盟
埼玉県柔道連盟
越谷市
越谷市教育委員会
越谷市体育協会
運営協力 : 越谷市立中央中学校 柔道部
越谷市立富士中学校 柔道部

審判・監督会議 : 午前9時20分～ 時間厳守。
※ 審判は開始前に出欠確認をいたします。
会場 : 会議室 1、2

1、試合審判規定

国際柔道連盟 試合審判規定（2022/3/1 一部改正）、国内における「少年大会特別規定」（含む埼玉県少年大会申合せ事項）、及び本大会申し合わせ事項によって実施する。

2、本大会申し合わせ事項

- (1) 試合時間は2分。
- (2) 勝敗の判定基準は「一本」「技有り」「僅差（指導差2）」とし、スコアが無く指導差1以下の場合「引き分け」とする。但し、代表戦はゴールデンスコア方式で勝敗を決定する。
- (3) 確認事項
 - ・ **試合場内の開始線での礼法は正しく行わせて下さい。特に低学年は時間を掛けても結構です。**
 - ・ 主審任せにせず、副審も積極的にジェスチャーを入れて下さい。
 - ・ 「大会時のトラブル防止策について」を確認ください。別添1参照（全柔連）。
 - ・ 判断が難しい場合は3審合議の上、ケアシステムを活用し、副審及び審判委員含め判断してください（手順を踏む）。
 - ・ 決勝戦は、指名審判と致します。審判の名前をアナウンスしますので待機をお願いいたします。
- (4) 国内における「少年大会特別規定」（含む埼玉県少年大会申合せ事項）
 - ・ しっかり適用下さい。別添2参照（県柔連）。
 - ・ 怪我防止のため、危険と感じた動作があれば早めの「待て」を掛けて下さい。
 - ・ 特に、脊椎（特に頸椎）に損傷を及ぼす動作と判断した場合、即座に「待て」を掛けて下さい。怪我になれば後悔します。
 - ・ 立技においては、習熟度の違いによるヘッドディフェンスを見逃さないで下さい。
 - ・ 寝技において、「抑え込み」宣告後、自ら危険な動作をした場合「そのまま」を宣告し、安全な態勢に戻し「よし」を宣告して再開して下さい。
 - ・ 「重大な違反」が発生した場合、3審合議、審判委員に確認の元、選手への口頭説明をしてあげた後、「反則負け」を宣告して下さい。
- (5) 場内外
 - ・ 場外の反則は徹底して下さい。
 - ・ 場外際で技を掛け、選手が場外に出て、判断が微妙な場合、副審は場内外のジェスチャーをし、主審はそれに応じ「スコア」か、どうかの判断をして下さい。
 - ・ 寝技における畳の外への対応は、触れる程度であれば継続して下さい。試合者のどちらかに有利と判断、もしくは、テーブルに触れるようであれば、「待て」を掛けて下さい。
 - ・ もし、隣の試合場に選手が入った場合、寝技を優先して下さい。

3、開会式整列

- ・越谷市柔道連盟の審判及び試合場係が誘導をしますが、畳に上がり第1,2試合場、第3,4試合場の審判で左右に分かれ、選手を挟むように整列をお願い致します。

4、柔道衣確認

- ・開会式終了後、直ちに、整列している選手の柔道衣チェックを致します。
- ・自分の所属以外で1団体（低学年、高学年）／1名以上でチェックをお願いします。
- ・明らかに規格以外の選手がいましたら、近くの主任審判員（割付表①）を通じて審判長までご連絡下さい。

5、試合場への入場

- ・「リーグ戦」「決勝トーナメント」の第一試合と、「準決勝戦」は、全試合会場一斉に開始いたします。
- ・審判待機席側から畳に上がり、「一礼」し、畳の上で一旦待機して下さい。アナウンス及び試合場係の指示に従い試合場内に入り「(団体戦の)礼」を行ってください。
- ・その後、選手を試合場係が入場させ、**試合場前**で整列させます。
- ・ここで、副審は、試合場前で整列している選手の「ゼッケン」と「対戦表」で選手確認をして下さい。第2試合目以降も「ゼッケンと対戦表」で選手確認を行ってください。
- ・主審は、この時間でタイマー等の確認を行ってください。
- ・その後、主審が選手を試合会場への**入場を促し**試合を開始いたします。アナウンスに従ってください。

6、代表戦

- (1) **リーグ戦**における代表戦は、「引き分け」であった対戦から主審が抽選で選出し、ゴールデンスコア方式で勝敗を決定する。技による得点があった場合、または指導が入った時点で試合終了とする。「引き分け」がない場合「任意選出」とする。ゴールデンスコア方式において、技による得点があった場合、または指導が入った時点で試合終了とする。
- (2) **リーグ戦の順位決定方法**における代表戦は、代表選手を**任意選出**とし、3チーム以上での場合、主審の抽選で試合順を決定。試合間1分インターバルを取る。ゴールデンスコア方式において、技による得点があった場合、または指導が入った時点で試合終了とする。
- (3) **決勝トーナメント**における代表戦は、「引き分け」であった対戦から主審が抽選で選出し、ゴールデンスコア方式で勝敗を決定する。「引き分け」がない場合「**任意選出**」とする。ゴールデンスコア方式において、技による得点があった場合、または指導が入った時点で試合終了とする。

- (4) 低学年の試合における対戦で、例えば、両チームとも先鋒が選手欠場で対戦がなく、中堅が赤の一本勝ち、大将が白の一本勝ちとなった場合、代表戦は「任意選出」し行うこととする。

7、審判順

- ・①印の審判が主任審判員を務めます。試合会場の審判順をコントロールして下さい。3名毎のチームを作り、1試合毎に3名ごと交代して下さい。
- ・低学年は、先鋒／1主審、中堅／2主審、大将、(代表戦)勝名乗／3主審の順で輪番にて進めてください。
- ・高学年は、先鋒、次鋒／1主審、中堅、副将／2主審、大将、(代表戦)勝名乗／3主審の順で輪番にて進めてください。
- ・準決勝戦までは、各会場の審判員で行ってください。
- ・予選リーグは所属団体の試合はない割り振りをしておりますが、決勝トーナメントは所属団体の試合は外れて(審判委員含む)行って下さい。
- ・決勝戦は、指名審判と致します。準決勝の時間で指名審判へ個別に案内します。

8、審判委員

- ・審判委員は、次のチームから1名選出し、試合会場系の隣で行ってください。
- ・ケアシステムをiPadで準備をしております。試合場責任者が試合場系にレクチャーをしていますが、使用不可の場合は無理せず進行を優先してください。

9、試合進行

- ・試合の進行具合によっては、対戦の試合場を変更する場合があります。各試合場系の指示、もしくはアナウンスに従ってください。
- ・昼食は、審判控え室(会議室1, 2)にて準備いたします。試合進行を見計らい順次取ってください。(全柔連派遣講師による柔道教室の時間も活用下さい)

10、救護

- ・第1,2試合場の間と第3,4試合場の間には救護を設けます。救護に近い副審が選手を誘導して下さい。

11、大会要項にない特別な事項についてお知らせ

- ・インドネシア、バリより特別招待チームを招聘しておりますが、年齢が明確ではありません。もし、事故が発生しましたら主催側の責任として扱います。ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

12、その他

- ・全柔連派遣講師の柔道教室は、お昼の時間帯を活用して実施致します。

以 上

別添1

大会時のトラブル防止策について

1 トラブル防止の4つの柱

- 1) 確認を徹底して、ヒューマンエラーを防止
「確認呼称」「目視確認」の徹底などによりヒューマンエラーを防止
- 2) ルールを正しく理解して、誤判断と誤操作を防止
事前の審判規則周知により、憶測・見込み等による誤判断・誤操作を防止
- 3) 互いの連携を強化して、ミスの連鎖を防止
役割分担と連携要領・リカバリー方法を確立し、ミスの連鎖を防止
- 4) 過信と慣れを払拭して、ミスを防止
自信あること、慣れたことを行うときほど、大きなミスが隠れている。

2 試合直前のトラブル防止策

- 1) 審判委員、副審が、時計係、会場統括の配置と電光掲示板、予備用ストップウォッチ、インカム（副審用、審判委員用）の設置を確認し、審判員と係員との連携を確認する。
- 2) 副審の役割分担（インカム担当、ケアシステム担当）を行い、インカムの通話テスト、ケアシステムの操作を確認する。
- 3) 係員に対しては、公正な大会を実現するために必要なチームの一員として、敬意を持って接し良好な関係を構築する。
- 4) 時計係の電光掲示板の操作スキルを確認する。
瞬時にタイマー操作が行えるか、イレギュラーのケースでも問題なく対応できるかなどを確認する。
- 5) 時計係が、「抑え込み」タイマーを操作する場合、あるいはスコアまたはペナルティを表示する場合は、「確認呼称」を行うことを確認する。
- 6) 副審は、時計係がタイマー操作やスコア表示等に迷う場面では、試合観察に支障がない範囲で必要な「助言・指示」を行うことを確認する。
- 7) 補助員は、常に主審の「抑え込み」と同時に、ストップウォッチによる補助計測を行い、時計係がタイマー操作を誤っている場合は、緑旗（青旗）を掲げ、補助計測が行われていることを主審、副審、コーチ、観客に周知することを確認する。
- 8) スコア、ペナルティ、タイマーの修正の権限は主審であり、試合継続中あるいは試合中断中に、主審の公式合図（ジェスチャー）あるいは指示で行われるものであり、係員等の判断で修正はできないことを確認する。

3 試合中のトラブル防止策

- 1) 副審は、主審が「抑え込み」を宣告した場合は、必ず「赤・白」の表示とタイマーの計測が適正に行われているか確認（目視確認と聴取確認）し、表示に間違いがあ

る場合には、直ちに修正を時計係に指示する。タイマー計測が明らかに遅れた場合は、補助員に遅延時間を確認して、主審に遅延時間と終了時間を指示する。

- 2) 審判委員は、電光掲示板の表示が間違っている場合は、介入し修正を指示する。
- 3) 間違った試合終了のブザーが鳴った場合は、副審あるいは審判委員がインカムで「そのまま」を指示し、主審が現状の体勢を保持し、合議結果に基づいて試合を再開する。

4 審判規則及び審判技法の確認

1) 脚の絡みによる「解けた」(審判規定 17 条「抑え込み」)

上からでも下からでも足を絡むことができたなら「解けた」である。

2) 主審の位置取り

- ① (不利な試合者の) 頭側から全体を観察することを基本とするが、必要に応じて位置取りを変える。
- ② 選手をタイマーと自身で挟み込む位置取りをして、タイマーの視認性も高める。
- ③ ケアシステムのカメラを遮らない位置取りをする。

3) 「一本」の宣告時のテクニックとして

- ① 「抑え込み」終了のブザーの後に、タイマーを確認してから「一本」を宣告する。
- ② 「一本」の宣告後、一呼吸おいて「それまで」を宣告する。

4) 「抑え込み」と「解けた」の宣告要領(審判規定 4 条審判員の動作)について

- ① 審判員はタイムキーパーがタイマーを開始したことを確認してから、通常の姿勢に戻って試合をコントロールすること。
- ② 片腕を前方に挙げ、指を伸ばし親指を上にして上体を試合者の方に曲げながら左右に速く 2、3 回振る。タイムキーパーが時計を止めたことを確認する。

5) 「そのまま」「よし」を実施すべき状況と実施方法について

- ① 「そのまま」は、寝技においてのみ下記の状況で適用される。
 - ・ 不利な立場にある試合者が反則を犯した場合
※ 状況によるが、「そのまま」を宣告せず、直接罰則を与えることができる。
 - ・ 試合者が負傷した場合
 - ・ 柔道衣が脱げかけたり、頭にかぶってしまったなど、服装を直す場合
- ② 「そのまま」で試合時間の停止し、「よし」で試合時間を再開する。(係員に周知)

6) 立ち姿勢からの寝姿勢への復元を実施すべき状況(IJF 規定にない措置)

- ① 主審が、寝技において、誤って「待て」を宣告し、試合者が離れてしまった場合
- ② 主審が、寝技において、誤って「一本」を宣告し、試合者が離れてしまった場合
審判は、試合者が不公平にならないよう、多数決の原則に基づいて、できる限り元の位置に近い状態に試合者を戻し、試合を再開させることができる。

このような事態を回避するために、副審は、主審の投げ技に対する「一本」に疑義があり、抑え込んでいる場合は、直ちに「抑え込み」を指示し、直ちに映像を確認して「技あり」であれば、主審にスコアを修正させ、抑え込みを継続させる。

7) 会場アナウンスを行うべき状況とその対応 (案)

① 試合結果を変更する場合

試合終了後でも、明らかに審判員・審判委員・掲示担当者のミスにより試合結果が間違っていた場合両選手を再度試合場に上げ「勝者指示のやり直し」もしくはGSから試合を再開する。但し、当該選手・チームの次の回戦が始まる前までとする。

② 主審が、寝技において、誤って「待て」あるいは「一本」を宣告し、試合者が離れてしまった場合主審は、試合者が不公平にならないよう、多数決の原則に基づいて、できる限り元の位置に近い状態に試合者を戻し、試合を再開させることができる。

③ IJF 規定 21 条 (想定外の事態) が発生した場合

審判長と審判委員と合議の上で、審判員が下した決定により処理される。

少年大会申し合わせ事項

国内における「少年大会特別規程」の第27条（附則）指導（軽微な違反）について

- 1 （相手の後ろ襟、背部又は帯を握ること。）関係
特例として「後ろ襟、又は背部を握った」状態で、通称ケンケン内股等をかけることは、〔瞬時的（1、2秒程度）〕の事項を適用せず、また、その後、連絡した技や変化した技についても、技の効果が途切れるまで継続を認める。
とありますが、今大会は（後ろ襟、又は 背部を握った〔瞬時的も含む〕場合は「指導」とします。
なお、受の体側から釣手を差し入れ、帯を掴んでの大腰等は認めます。（但し、帯を持ち続ければ通常どおり「指導」です。）
- 2 （両膝を最初から同時に畳について背負投等を施すこと。）関係
両膝を畳について施した場合は、「指導」であるが、今大会は片膝を畳についての背負投等を施した場合は、ノースコアとし、1回目はノーペナルティ、2回目からは「指導」とします。
- 3 （無理な巻き込み技を施すこと。）関係
「無理な巻き込み」とは、軸足のバネを利かすことなく、体を利用して倒れ込むようにして巻き込んだ技をいう。とありますが、それに加えて最初から釣り手を離して巻き込む、又は技の途中で釣り手を離して巻き込んだ場合は「指導」とします。

怪我防止の観点から以上のことを今大会の申し合わせ事項とします。

その他にあっては、国内における「少年大会特別規程」の通りと致します。